

町田市スポーツ推進審議会（第3回）
議 事 要 旨

1. 日 時 : 2013年8月19日（月） 18:30～20:30

2. 場 所 : 町田市役所 10階第2会議室

3. 出席者 :

・町田市スポーツ推進審議会

(会長)	川崎登志喜	玉川大学教育学部教授
(会長代理)	渡辺剛	国士舘大学体育学部教授
(委員)	三ツ谷洋子	法政大学スポーツ健康学部教授
	山本正実	町田市体育協会理事長
	市川健一	東京都障害者スポーツ協会副会長
	守屋実	NPO法人アスレチッククラブ町田代表理事
	佐藤正志	町田商工会議所専務理事
	柴田智	社会福祉法人悠々会・ケアフルクラブ悠々園施設長
	菊盛由利子	市民委員
	新宅雅也	市民委員

(欠席) 比良田健一 堺中学校校長

・事務局

文化スポーツ振興部スポーツ担当部長	笠原道弘
スポーツ振興課課長	羽根田文夫
スポーツ振興課担当係長	河本晋一
スポーツ振興課	本田裕介

4. 資料類 : 次第

資料1	町田市スポーツ推進審議会（第2回）議事要旨
資料2	第2回推進審議会で提起された課題等
資料3	施策体系表（案）
資料4	町田市スポーツ推進計画素案（案）

5. 議事要旨

■ あいさつ

（文化スポーツ振興部スポーツ担当部長 笠原道弘）

・今週末8月23日には9月議会の告示がある。本日の素案を行政報告という形で議会に提出するとともに教育委員会にも話をさせていただいたうえでパブリックコメントという流れとなる。本日の会議はあらかじめの内容を固める要となるので、委員の皆さんから考えをお聞かせいただきたい。

■ 第2回審議会議事録確認

（川崎会長より1箇所修正の指摘があった。修正のうえ公開する。）

■ 第2回審議会の指摘事項について、推進計画素案について

(事務局より、資料2、資料3、資料4を説明)

(事務局)

- ・現在、資料の作成と同時並行で庁内調整を行っており、その意見を報告したい。

13 ページ「幼児期における積極的な身体活動の推進」

「学校」は場所を意味しているのか事業を意味しているのかという指摘があったため、削除する方向で考えている。

13 ページ「地域と連携した校庭の芝生化」

教育委員会で現在ほぼできるところは終わっている状況で、今後進められるか疑問があるという指摘があったため、修正する必要がある。

14 ページ「子どもの居場所づくりと連携した学童の身体活動の推進」

学童という言葉は学童保育以外で使わないことと、学童保育は保育に欠ける子どもたちの支援の場であるということから、「子どもセンター」や「まちとも」との連携が望ましいのではないかと指摘があった。

14 ページ「部活動の円滑な運営」

教育委員会としては、現時点で具体的な施策がないため今後調整が必要である。

15 ページ「ファミリースポーツの推進」

ファミリースポーツとは何かについて用語の定義が必要という指摘があった。

19 ページ「公園・緑地等の芝生の整備」

「学校の芝生化が各校で進んでいます」との記載については、学校と公園、緑地等比較して記載する必要はないのではないかと指摘してほしいという意見をいただいている。

19 ページ「地域スポーツ推進のためのクラブハウス等の整備」

重点施策となっているが、教育委員会からすると地域のスポーツの推進については学校が主体とはならないという意見をいただいている。

21 ページ「まちだ地域スポーツクラブモデル事業の推進」

教育委員会が主体となるところではないという指摘を受けている。

24 ページ「ホームタウンチームの社会貢献活動やイベントの参加拡充」

25 ページ「スポーツイベントの集客増に向けた連携強化」

「スポーツを通じたシティセールスの推進」

広報課が推進者として挙げられているが、それぞれについて広報課としての具体的な役割は何か明確にしてほしい、逆に26ページ(3)情報発信力・広報力の強化に入るべきではないか、そのあたりを整理する必要があるとの指摘を受けた。

25 ページ「スポーツを通じたシティセールスの推進」

町田の魅力をアピールするという表現ではなく、町田の魅力であるホームタウンチームの魅力をアピールしていくという表現に改めるべきという指摘があった。

- ・また、全体的に今回の計画の素案を庁内で調整した結果、推進者や連携先として関係課や団体が書かれているが調整不足であるという意見をいただいた。当課としては推進計画策定調整会議で説明させていただいたつもりであったが、そのまま載せると検討が止まってしまうことが想定されるため、推進者や連携先は計画素案の段階では削除させていただきたい。今後調整し、次回の計画案の段階で掲載したいと考えているため了解いただきたい。

(川崎会長)

- ・本日は市議会に提出する素案の大方をここで決めなければならないため、第2章以降を中心に話を進めたい。まずは、達成目標の1, 2, 3についてご意見を伺いたい。

(三ツ谷委員)

- ・達成目標3について、ホームゲームでの年間観戦者数の17万人は強気の数字だが、根拠はあるのか。

(事務局)

- ・町田市スポーツ振興計画策定時の想定では、ペスカドーラ町田は年間15試合、平均1,500人で22,500人、FC町田ゼルビアは当時のJ2の平均観戦者数が7千人で年間21試合で14万7千人、これを合計した16万9千5百人をまとめて17万人とした。

(守屋委員)

- ・観戦者数7千人は大変。キャノンは現在町田で開催していないが今後野津田で開催するという期待はないのか。前回の議事要旨も読み、ホームゲームという概念を持たないキャノンイーグルスの観戦者数を落とした経緯も知っているが、もっと町田に根づいてほしいという気持ちがある。

(事務局)

- ・ラグビーに関しては関東で試合を行っているのが秩父宮、三ツ沢、熊谷である。キャノンイーグルスも野津田陸上競技場で試合をさせてほしいという申請は協会にしているが、まだ実現していない状況。市でも働きかけはしている。

(川崎会長)

- ・そういう意味では5年後に町田市内で何試合か開催するという話になれば達成数値に入れても良いのではないかと思う。

(三ツ谷委員)

- ・名前と枠だけでも素案に入れて働きかけを行っていくことも考えられる。

(渡辺委員)

- ・現状の実態がないのに観戦者数に入れるのは良くないが、何年後かに誘致するという表現でも良いかもしれない。

(川崎会長)

- ・現在試合はないが今後誘致するという表現でも良いかもしれない。その他の目標については、意見がないようであれば、掲載されている内容でいきたいと思う。
- ・次に推進施策であるが、事務局の説明では推進者と連携先は素案の段階では掲載しないということなので、それ以外の部分についてご専門の分野から気になるところをご意見いただきたい。

(守屋委員)

- ・前回欠席したため提案できなかったが、技術や体力をつけるだけでなくアスリートとして子どもたちが今後成長していくためには、栄養学や心の成長をサポートする体制が必要だろうということで、昨年から親を対象に座学を行い今年から調理編に移る取組みを行っている。何らかの形で推進計画の中にスポーツと食育を入れられないか。東京都のスポーツ推進計画を読んでも食育まで踏み込んだ表現がどこにもなかった。町田市でも食育はいろいろな部署が担当しているようだが、スポーツ推進計画の中で子ども達のスポーツと栄養学が繋がられないかと思っている。表現としては「アスリートのための食事・栄養学」といったもので子ども達の競技力の向上に寄与するというような内容ではどうか。将来的にトップアスリートになればドーピングなど自分達の身体について必要な知識になってくる。他の地域では行っていない先駆的な取組みとして取り入れてもらえばと考えている。もし可能であれば、14 ページのジュニアスポーツの推進の「支える」「する」の両方に入れられないか。

(川崎会長)

- ・現時点では食育については学校に関する部署となるのか？

(事務局)

- ・いろいろな捉え方があって、子ども達の成長という意味で言えば教育委員会になるだろうし、健康に関しては健康課になるため、どことはなかなか言えない。キャノンイーグルスには栄養士がついて健康管理を行っているという話もあるのでそういった意味では栄養士に協力いただければ可能かと思う。

(守屋委員)

- ・食育も一つだが、心の成長についても合わせて取り組んでいきたい。先日パラリンピアンの人に来て、子どもと親に話を聞いてもらったのだが、ただ技術を向上させるのではなく、心の成長や身体の成長の両面からせまっていけないかと考えている。そういう切り口を計画に含めてもらえたらと考えている。

(事務局)

- ・その場合の対象はどの世代となるか。

(守屋委員)

- ・学齢期となる。

(柴田委員)

- ・身体づくり、健康づくりは誰でも一緒なので、学齢期に加えて全般的な世代にわたって入れたほうが良いと思う。

(三ツ谷委員)

- ・Jリーグではコンサドーレ札幌でJAと連携して食育に取り組んでいる事例がある。Jリーグの各クラブは地域に拠点を持つため取り組みやすい。今年長野県では男性の平均寿命が日本一となりその原因は食生活の改善にあったと聞いており、高齢者の食育も必要だと思う。子どもを取り囲む環境は悪化し人間力が低下しており、Jリーグでは心の教室のなかで小学校5年生を対象にプロ選手などを先生として取り組んでいる。そういったものも

活用していただければと思う。推進者や連携先は素案には書き込まないということだったが、大学や民間企業と一緒にやっていくという考え方がなければ膨大な事業をやっていくのは難しいと思うため、ぜひ連携してやっていただきたい。

(市川委員)

- ・障がいのある人たちに関わっている立場から、東京都に障がいのスポーツセンターが2箇所あるが、スポーツをする前に栄養学だけでなく健康的な診断をする。例えばリハビリでスポーツをしたほうが良いとか、心肺機能が弱点になっているからこういうスポーツをとる機会があると栄養学も生きると思う。単にスポーツがやりたいからというのではなく、その人に合ったスポーツをサポートしていく。
- ・18 ページ「障がい者スポーツの推進」で「町田市の独自性のある障がい者のためのスポーツ」とあるが、独自性を求めることが本来の障がい者本人のニーズに合っているかという、意外に水泳や陸上など普通の競技をしたいというニーズが強い。ただしできないので自助であったり介助であったりする必要がある、そういった条件整備をしてほしい。少数勢力なので何かをしようといっても集まれないため、集まれる場所があると良い。モデル的な地域スポーツクラブで障がい者を受け入れてくれることを望む。モデル事業を早く立ち上げて、1箇所でも2箇所でもユニバーサルなスポーツクラブを設けてほしい。
- ・私は障がい者スポーツ協会の本部におり、指定管理者を2つしているが、指導者として2千人の登録があっても動いているのは3割。いろいろな所を紹介してもうまく繋がっていないぎくしゃくした所があって、資格をとってもどう実践を積めるかが大きな課題となっている。

(川崎会長)

- ・独自性のある1つのものを展開するのではなく、町田の事情を考えれば障がい者も一般者も共に楽しめるモデル的なスポーツクラブを推進するのはどうかというご意見だった。他にはあるか。

(渡辺委員)

- ・先ほどスポーツと栄養学の話があったが、以前は体育館で健康体力相談をしていたように思う。以前はドクターを入れて大々的にやっていたと思うが、現在は縮小しているのではないか。これをお金をかけないでやれる方法を考えてはどうか。定期的な取組みがあれば相談しやすいと思う。現在あるものを拡大していくほうがスムーズではないか。

(三ツ谷委員)

- ・市内の大学という記述について、いくつか意見を述べたい。
19 ページ「新たなスポーツ利用の場の環境整備」で、「大学や民間企業との共同により新たなスポーツの場の創出を図る」とあるが、大学が場を整備するということか。

(事務局)

- ・現在ある施設を市民が使える場として提供していただきたいという意味で表現している。

(三ツ谷委員)

- ・こういう場合「協働」といういい方をするのか？「協力」ではどうか。

(事務局)

・古い言い方では「連携」という言葉がある。

(三ツ谷委員)

・実際に考えると施設はあるが、なかなか難しい。部活で使っていたり、授業で使っていたりする。調整をする場合は大学に対して市からどここの施設でも何時間でもいいから市民が使える施設はあるか、という聞き方になるのか。そうするとなかなか難しいかもしれない。

(事務局)

・もともと相原にスポーツ施設があまりなかったことから、法政大学のテニス教室からまず始めさせていただき、それが地域スポーツクラブに発展していった経緯がある。他には東京家政学院大学には土日にテニスコートを貸していただいている。他にもそういった声があるため大学や企業の施設が使えるようであれば活用させていただきたい。

(三ツ谷委員)

・確かに町田市から連携事業として財源的なバックアップをいただき、テニス教室を開いている。そうすると、法政クラブの場合は指導者もつけているため、「新たなスポーツ利用の場」ではなく「新たなスポーツ利用の場や機会」と言葉を加えるとよろしいかと思う。

(川崎会長)

・他にも表現については多くの意見が出てくるのではないかと思うが、他にも気付いた箇所があればご指摘いただければと思う。

(山本委員)

・17 ページでマレットゴルフがやや唐突に記述されており、異質な感じがする。

(事務局)

・16 ページに現状についての記述があるが、リサイクル文化センターの建て替えて現在使っている人が使用できなくなる状況が数年先に出てくる。

(川崎会長)

・第2回審議会で意見が出された以外にも深い意味があるということだ。唐突な印象を与えないよう、説明に書いてあるものを文章に入れておくなど文章を工夫する必要がある。

(山本委員)

・31 ページ「広域スポーツのブランド化」の「民間団体が主催する、…市民マラソン」という記述があるが、これは新聞社が主催している武相マラソンのことを指していると思われる。我々が市から委託を受け開催している66年の歴史がある武相バレーボール、武相駅伝を省いた理由はあるか。

(新宅委員)

・武相マラソンのマラソンコースは記録を作るコースではないため、記録を作る選手は嫌がる。そういう意味では市民マラソンとしては盛んになっているが市民マラソンに向かったブランドの提唱はできるが、一流選手に来てもらうには地形的な問題がある。アップダウンがあるので練習には良いが記録を狙ったりスピードを極めたりするようなコースではない。もしブランド化を本当に考えるならコースの設定も変更しないとブランド化できないのではないかと。それは駅伝も然りで、もっと人に来てもらうのであれば周りの環境整備をしていく必要があるという感じがする。

(川崎会長)

- ・東京マラソン以外はどこも赤字で、京都や大阪も出走料1万円とって3万人来てもあまり儲からないくらい運営費がかかるため、スポンサーをとらないとやっていけないのではないかな。

(新宅委員)

- ・ボランティアを募集してもウェアを揃えなければならないなど、スポンサーがいないと難しいのかなという気がしている。

(川崎会長)

- ・駅伝やバレーもやっているが認知度が低い面があるのかも知れない。マラソンだけを取り上げるかどうか、ご意見をいただきたい。

(新宅委員)

- ・マラソンもあれば駅伝もあるという形で連携させてうまくアピールできれば望ましい。駅伝はアップダウンのある地形は面白いと思う。

(川崎会長)

- ・武相のついた大会は2つあるとのことだが、武相と言う概念はどのエリアなのか。

(山本委員)

- ・大会により異なっている。参加者が多いと絞ってしまうことがある。横浜、八王子あたりまでを指しているようだ。

(新宅委員)

- ・開催している場所をアピールするのであれば、「町田」という名前をうまく使わないと、武相はイメージ的にどこなのかはっきりしない。ブランド化という意味では町田という名前をうまく入れるとどこでやっているかわかるし、頭に描ける。

(川崎会長)

- ・武相ブランドは、提携する市長さんがアピールしないと強くない。武相については提携する他のスポーツも含めて表現することとしたい。

(渡辺委員)

- ・28 ページ「障がい者スポーツの活性化」について、課題のところで身体障害者陸上競技についてのみ記述があるが、町田は社会福祉の市であるのに、他のスポーツは提供しないのか？

(事務局)

- ・現状で身体障害者陸上競技だけしかできていないため、それ以外に声掛けをしていくという意味であり、身体障害者陸上競技に限ると言うことではない。

(渡辺委員)

- ・国体では町田市で行われる障がい者の競技は陸上か？

(事務局)

- ・オープン競技としては、バドミントンを予定している。

(川崎会長)

- ・国体を契機にバドミントンなど他の競技にも会場の提供が増えていくということもあるかもしれない。その他にご意見はあるか。

(佐藤委員)

- ・最初に守屋委員の提案された話を入れるかどうか。表現についてはいろいろあると思うが時間が限られているため、基本となる項目を入れるかどうかを決めたほうが良いのではないかな。

(川崎会長)

- ・5年前の計画から大きく変わっているところと言えば、8ページに戦略があり、5つの推進施策がある。この推進施策に対応するのが11ページからの施策内容となっている。全体的に言えば、目標と施策内容はあまりリンクしていない。達成目標を達成するために重点施策の何が寄与するのかという表現が欲しいところだ。
- ・守屋委員から出た食育については、まずは入れるのか入れないのかということもあるが、文部科学省の5年間の基本計画でも「子どもの体力向上」という従来なかった施策を入れたということがあり、町田市でも食育や栄養についてスポーツ分野で取って代わり、栄養士の巡回を行う予算をつけるという一つの柱に置くのかどうか。どこかに小さく書いていただけでは、結局書いていただけになってしまう。もし本当に取り組むのであれば栄養士に予算をつけて5年間でこういう施設を回してもらおうという計画を行政が作れるようにしておくことが考えられる。守屋先生からのご意見を追加するか。

(守屋委員)

- ・私は農協に声を掛けに行っており、地場野菜による料理教室等を考えているが、計画に入れてもらえると農協にも協力してもらいやすい。予算化してもらえれば嬉しいが、予算化してもらえなくても民間の力である程度はできるつもりではいる。予算化しなくても市の施策に載ると民間企業にもスポンサーになってくれと働きかけやすい。

(菊盛委員)

- ・乳幼児期は健康福祉会館でお母さん向けの栄養相談教室が開催されているため、子育てと健康でスポーツができる身体に育っていくための内容となっている。やはり栄養学という概念を推進計画に入れていったほうが良い。

(川崎会長)

- ・12ページ推進施策1の「子どものスポーツの推進」に入れていくか、思い切って別の柱を立てるか。

(渡辺委員)

- ・推進施策2の環境づくりで入れてはどうか。

(山本委員)

- ・その場合、健康相談の充実などは既存の施策でみていったほうが良いか？

(渡辺委員)

- ・現在既に取り組みがあるため、それを活用したほうが良いのではないかな。

(山本委員)

- ・イベントをするなかで健康相談などの測定が最も混む。専門家が来る必要があるためお金はかかり、連携の工夫を考えているが、血圧測定などの診断は人気がある。

(三ツ谷委員)

- ・やはり推進施策1が良いのではないかな。あとは皆ハード系の施策である。

(川崎会長)

- ・ジュニアと高齢者にわけて文言を入れていくという手もある。ファミリースポーツの推進に栄養相談を含めても良いかもしれない。大きな柱ではないとしても今回は部分的なところ

ろからまず入れていくことでどうか。

- ・他に抜けているところはあるか。

(三ツ谷委員)

- ・推進するプロジェクトの中核となる組織はスポーツ振興課となるのか。コーディネート機能が非常に求められると思うが。

(事務局)

- ・庁内調整会議を持っているため、原案を作るだけでなく、その後の進捗管理等も事務局が主体的に動いていきたい。庁内では調整会議を行い、全体としては年に1～2回審議会で進捗を報告していきたい。

(川崎会長)

- ・私のほうで言い忘れたが、重点施策について皆さんのご意見を伺いたい。重点施策はこれで良いか、不足はないか。余分なものはないか。
- ・表現としては施策名の後ろに重点とつけるよりも、頭に「重点施策」と書いた方が良いと思う。
- ・施設ではストリート系の施設が重点施策となっているが、これは実現可能だから重点ということになっているのか。

(事務局)

- ・野津田公園の整備計画が庁内で検討されており、このなかで三ツ谷先生にも検討に入っていていただき、是非三ツ谷先生からも推していただければと考えているが、計画に含められそうなため、ぜひ重点施策として推していきたい。

(川崎会長)

- ・他の重点施策はどうか。ニュースポーツも重点となっているが、ニュースポーツの内容が先ほどの話で良いのかということも含め、議論いただきたい。ニュースポーツを推進するにあたっては、是非ともこのスポーツを推進していきたいというやる気のある人が中に入ないと難しいのだが。

(三ツ谷委員)

- ・重点に選んだ基準はあるのか。

(事務局)

- ・実現可能性が高そうな施策やそれぞれの施策のなかで重要だと考えている施策を選んだ。

(川崎会長)

- ・先ほど説明にあったシティセールスも重点施策となっている。

(三ツ谷委員)

- ・シティセールスについては例えば参加人数を3割増しにするといったような数値目標はあるのか。私は広域スポーツのブランド化については重点としなくても良いと個人的には思う。

(事務局)

- ・小学校の学習指導要領のなかで、ダンスも取り上げられている。ここには出していないがそういうものも町田でブランド化できるかもしれない。シティセールスということであれば、町田ならではのブランドの一つとしてヒントとなるのかと思う。

(三ツ谷委員)

・ブランド化は重点ではないということか。

(事務局)

・重点ではない。

(渡辺委員)

・重点施策のなかで健康と連携したスポーツの推進があり、ストレス解消や心身の健康についても記述があるため、先程から議論になっている栄養学や心の健康についてここに入れてはどうか。

(渡辺委員)

・ストリート系にはバスケットも含まれているのか。

(三ツ谷委員)

・相模原の施設にはなかったが、リングをつければできるのであれば、バスケットも考えられる。

(川崎会長)

・ダンスの話が出たが、ダンスができるような広場やスタジオが町田にはあるか。例えば市役所の前はガラス張りでミラー替わりになりきれいに映るがここを開放して集まられては困るのか？

(三ツ谷委員)

・相模原の駅ではグリーンホールの近くで子ども達が集まって練習しているようだ。

(新宅委員)

・ここでやっても良いとなると大人数で集まって座り込まれてしまうため、難しい。

(事務局)

・実態としては市民センターのホールを借りて練習している。町田の南地区にいる小学生は全国1位を取るなど、活躍しているようだ。

(川崎会長)

・重点に位置づけられているスポーツ目的で借りる場合は格安で施設を借りられる等も考えても良いのかもしれない。

・残り時間が少なくなってきたため、他に抜けている項目がないか。

(菊盛委員)

・1 ⑩障がい者スポーツの推進、2 ⑤障がいのある人がスポーツを楽しめる環境整備、4 ⑤障がい者の競技スポーツ大会への場の提供等、障がい者に関連する施策が3つあるがどれも重点項目に位置づけられていない。町田は社会福祉の市と言われているにも関わらずどれも入らないのは足りないのではないかと思う。

(川崎会長)

・重点施策に入れるとすれば、まずどれから手をつけるべきか。

(菊盛委員)

・渡辺委員の話にもあったが、陸上競技だけという現状があるため、水泳など場所の提供を働きかけることはできるのではないかと思う。

(川崎会長)

・国体で会場となるバドミントンを継続して受け入れていくやり方もあるかもしれない。

(守屋委員)

- ・大会だと象徴としては良いのだがアスリートだけの参加となってしまうため、もっと気楽に参加できる場がたくさん作っていったらという思いはある。

(市川委員)

- ・私も関係者として1⑩で受け止めていただきたい。環境づくりはなかなか難しいため、推進計画の大枠で捉えていただければ施設利用についても話が出てくると思う。

(川崎会長)

- ・具体的に何が実現できるかわからないが重点施策として位置づけておくことがきっかけとなって進む、逆に重点にしておかないとそのままになってしまうということで、入れることにしたい。

(佐藤委員)

- ・商工会議所は民間企業の集まりであるが、推進計画の連携先をみると民間企業は2つの施策しかない(1⑤ジュニアスポーツの推進と2④新たなスポーツ利用の場の環境整備)。しかし、現実にはホームタウンチームへの出資も含めて民間企業も入って良いと思う。企業も一緒にやらないとうまく進まない。

(川崎会長)

- ・現実に取り組んでいるものは施策の連携先として入れていく。

(佐藤委員)

- ・ツーリズムについても確実に商工会議所も取り組んでいるため、団体名でなく民間企業を入れてほしい。判断は事務局にお任せする。

(川崎会長)

- ・事務局は素案の段階でカットされた主体と連携先については庁内で調整を図っていただき、うまくいったところからスタートする部分もあると思う。5年間で何がスタートできて、何が実現できるのか。数値目標部分以外の施策が進むようにお願いしたい。

(三ツ谷委員)

- ・18ページの障がい者スポーツの推進で、「町田市の独自性のある障がい者のためのスポーツを育成し」という表現については、まずは気軽に親しめるスポーツを前提とした表現に改めた方が良い。

(川崎会長)

- ・皆が参加できる障がい者スポーツの普及という文言に変えるということをお願いしたい。これで議事を終了したい。

■ その他

- ・本日の議事録については後日郵送し、一定期間修正をいただいてから公表したい。
- ・本日の素案についてはタイトなスケジュールのため、ご意見をまとめて反映させたいので、市議会と教育委員会に提出させていただきたい。その後パブリックコメントの前に9月中旬に委員に資料をお送りし確認していただきたい。
- ・その後、12月の第4回審議会では事業の内容について審議していただきたい。